

◆文庫あれこれ◆

◆残暑お見舞い申し上げます。◆それにしては、暑いこと。みなさんお元気でお過ごしですか。◆暑さの東京から6、7、8日と昨日11日に来て、やはりここは凌ぎやすいです。◆さっき、孫といっしょにペルセウス流星群を観ようと夜空を仰ぎましたが、残念、見つけれませんでした。◆それで、フィンランドと、カナダ・イエローナイフヘアローラを見に行つて何時間も空を見あげていたことを思い出しました。そのときの寒かったこと。



(ここまでくっきり観えませんでした)

◆7月、文庫の10年記念の催しも無事楽しく終わりました。10年誌文集はいかがでしたか？読書好きな方々にとって、ほかの方の感想やおすすすめを読んで、ご自分もまた読んでみたい本やテーマが広がると嬉しいなと思っています。◆みっつお願いとお断りがあります。まず予約について：読みたい本が誰かに借りられている時、予約することができますが、予約した方は、どの本であったか(正確なタイトルかID)を憶えておいて、次の時、係に戻っているか確認してください(残念ながら、それがなくPC上で確認しようがなく)。だれが予約したかわからないまま、いつまでも宙に浮いて別置されたままになります。次に、リクエストについて：リクエストを受けてもどんな本でも購入する訳ではありませんので悪しからず。文庫においておきたい本で、たくさんの人にも読んでもらえる本、あまりに高価でない本、また同じ方から何回ものリクエストもお断りさせていただくことがあります。会費はいただいておりますが、個人的な私設の図書館ですので、限界があります。その辺をご勘考の上

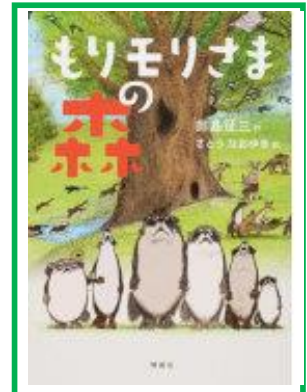
リクエストしてください。基本的選書が私の個人的嗜好で恐縮ですが、3つ目は寄贈図書：ご覧のように棚の余裕がなく、読まれない本を整理しています。いただくのはありがたいことですが、あと処理は任せてくださるようお願いいたします。◆11年目が始まりました。可能な限り喜んでいただけるよう続けられるよう考えていきます。残りの夏をお健やかに過ごされますよう。(西村)

今月、夏休み文庫特別開館期間
★13日(土)～17日(水)※変則第2週土・日です。
文庫の本で宿題や調べものをやってみましょう。
お盆休みに見えたお孫さんといっしょに
文庫の子どもの本をよんでみましょう。
何度でもおいでください

◆今後の開館スケジュール◆
◆9月は変則第4週
24(土)、25(日)の両日
◆10月は変則第4週
22(土)、23(日)の両日
◆11月は通常19(土)、20(日)の両日
◆12月は通常17(土)、18(日)の両日
文庫の時間は土曜日は午後2時～5時、
日曜日は午前10時～午後3時
臨時期間中も午前10時～午後3時
◆毎月開館日の日曜には、子どものための
小さなおはなし会があります。
午前10:30～11:00
★おはなし沙羅の勉強会
毎月開館土曜日 11:00～13:00
読みかかせの練習・本選の勉強にもどうぞ
沙羅の樹文庫 0557-51-3737
<http://www.saranokibunko.com>
伊東市大室高原7-122

(2016年8月号)

沙羅の樹文庫だより No.120



伊豆高原に住まいする田島征三さんは、絵本(主に絵を描く)制作が多いのですが、この本では、挿絵はほかの人に任せ、物語を紡いでいます。何か強いテーマをもって書かれているようです。この地に住んで考えられたテーマでしょうか、新潟その他で制作のデモンストレーションをして得たテーマでしょうか、以前住んでいた奥多摩日の出町のことでしょうか。読んでみてください。身近な問題として。(理論社刊)

＊はまなすや 今も沖には 未来あり (草田男)
＊溪流で冷やされたビールは悲しかった (中也)
＊空だけが素敵に晴れている。あすも天気にはちがいない。(修司)
＊だれか話し相手がいるというのはどんなに楽しいことか、はじめてわかった。自分自身や海に向っておしゃべりするよりはずっといい。(ヘミングウェイ)
『四季の名言』(平凡社新書)の「夏」の項より

2016年8月に読んだ本についての感想 2016. 8. 11 by 森林浴

『村に火をつけ、白痴になれ 伊藤野枝伝』 栗原 康著 岩波書店刊 2016. 6第4刷

この本は岩波書店から出ているが、主題の伊藤野枝(やえではなくのえ)も、著者の栗原康にしても岩波にしては割と型破りの本ではないのか。

1922年(大正11年)9月1日、史上最大級の大地震一関東大震災が発生、野枝はアナキスト(無政府主義者)大杉栄、六歳の甥の橋宗一と共に、甘粕大尉率いる5人組の憲兵隊に「社会予防措置として」惨殺される。(殴る蹴るで3人殺して古井戸に遺体を投げ込んだ)その後、甘粕大尉はたった禁錮3年で出て来て、満州で裏の主役になる。ひどい話。

その前、1895年(明治28年)九州博多の田舎(現 福岡市西区今宿)の極貧の家に生まれた伊藤野枝が、親戚の援助で東京の高等女学校を出て、親の定めた田舎の結婚相手の夫を嫌って離婚し、高等女学校の英語教師 辻潤と恋に落ち、社会的非難を浴びるが、当時雑誌「青鞥」を主宰して女性の社会進出、社会地位の獲得を強く主張していた平塚らいちろうの下で雑誌作りに参加する。平塚らいちろうが見た野枝の

第一印象が、「小柄でがっしりしたからだつき、ふっくりした丸顔に黒目がちの目が光っていてそれがなんとも野性味にあふれていた」とある。凄い破壊力に満ち溢れた革命の女、野江の誕生である。野江はそのあと、辻とは別れ、時代を震撼させたアナキスト大杉栄と結ばれ、日本におけるアナキズム運動の先頭に躍り出ることになる。野江は辻潤との間で2人、大杉との間で5人の子供を生み、革命運動にも活躍している。なんとも信じられないエネルギー・強烈な個性だ。

著者によると、野江の墓は故郷(福岡)にあったが、何度立てても村人などにぶち壊されるので、今は近くの山の奥に大きな石一つが墓として密かに置かれているという。(公表では静岡市葵区に墓がある、となっているがー)

この本で前から気になっていた日本における革命の女・野枝のことが少し分かりました。



◆伊豆 高原 だより◆

～夏休み のびのび過ごして～
8月はじめ、こんな見出しで伊豆新聞に載っていました。市民団体「子どもたちを放射能から守る伊豆の会」(代表は文庫の会員・安部川さん)が福島の子供達を招いてもう5年。今夏も「夏休み保養ステイ」が伊豆高原のペンション(アートハウス・ホライズンさん)の協力です。実施されたようですね。関係者のみなさん、ご苦労様です。さて、嬉しいのはイベントのひとつの小さなおはなし会にVNさん(文庫のおはなし会のメンバー)たちが少し前から参加しています。今年はこんなプログラムだったそうです。きっと、福島の子供もたちにとって伊豆高原の思い出のひとつになっていることでしょう。

- 夏の夜の小さなおはなし会 2016. 8. 2
1. 「ほしい」大型しかけ付きの語り (藤田浩子著「おはなしおぼさんの小道具」 一声社)
 2. 「蚊」あやとりと歌(蚊のカノン) (佐藤涼子著「お話会のプログラム」 編書房)
 3. 「アリからみると」かがくのとも傑作集 (桑原隆一文 栗林慧写真 福音館書店)
 4. 「とべバッタ」ビッグブック (田島征三著 偕成社)
 5. 「蛙ほたもち」語り (藤田浩子著「おはなしおぼさんの小道具」 一声社)

※沙羅の樹もほんのちよっとだけお手伝いしています。

16年8月に入った子どもの本

絵本

『しげちゃんとじりつさん』(室井滋作 長谷川義史絵 金の星社 2016) ID12123
『ロンと海からきた漁師』(チェン・ジャンホン作・絵 平岡敦訳 徳間書店 2015) ID12120
『星のひとみ』(トベリウス作 おのちよ訳 万沢まき絵 アリス館) ID12129

『青い馬の少年』(ビル・マーティン文 ジョン・アーシャンボルド絵 アスラン書房) ID12130

よみもの

『かいけつゾロリのおいしい金メダル』(はらゆたか作 ポプラ社 2016) ID12124

『もりもりさまの森』(田島征三作 理論社 2016) ID12125

『きかせたがりやの魔女』(岡田淳作 偕成社 2016) ID12078

『四人のおばあさん』(ダイアナ・ウィン・ジョーンズ作 徳間書店 2016) ID12122

『ハリネズミの願い』(トーン・テヘレン作 新潮社 2016) ID12127

『十三番目の子』(シヴォーン・ダウト作 小学館 2013) ID12128

『古森のひみつ』(ディーノ・ブツァーティ作 岩波少年文庫 2016) ID12126

『少年探偵1 怪人二十面相』(江戸川乱歩作 ポプラ社) ID12131

『少年探偵17 鉄人Q』(江戸川乱歩作 ポプラ社) ID12137※request

古本しかないけど少しずつ入れますね♥

☆**広瀬おばさんからのよみもの・ノンフィクション***

『茶畑のジャヤ』(中川なをみ作 すずき出版 2015) ID12084

『アラビアン・ナイトのおはなし』(中川正文ぶん 赤羽末吉えのら書店 2015) ID12074

『竹取物語』(石井睦編訳 偕成社 2014) ID12081

『ちいさなちいさなベビー服』(八東澄子作 新日本出版社 2015) ID12083

『マレットファン一夢のたまねぎ』(村中李衣作 新日本出版社 2016) ID12076

『浮き橋のそばのタンムー』(彭学軍文 渡辺仙州編訳 ポプラ社 2015) ID12079

『老嬢物語』(高樓方子作 偕成社 2016) ID12080

『桜の子』(陣崎卓子作 文研出版 2016) ID12082

『ねこの風つくり工場』(みずのよしえ作 偕成社 2015) ID12075

『ぼくたちの相棒』(ケイト・バンクス&ルパート・シェルドレイク著 千葉茂樹訳 偕成社 2015) ID12077

科学読み物・絵本

『ぼくはアホウドリの親になる』(南俊夫文・写真 偕成社 2015) ID12088

『ウミガメものがたり』(鈴木まもる作・絵 童心社 2015) ID12089

『のっぽのスイブル 155』(こもりまこと作 偕成社 2016) ID12090

『サバンナを生きるゾウのこども』(ガブリエラ・シュテプラー写真・文 徳間書店 2016) ID12091

『まえとろしる どんなくるま2』(こわせもりやす作 偕成社 2016) ID12092

『いばりんぼうのカエルくんとこわがりのガマくん』(松橋利光作 アリス館 2016) ID12093

『しんかんせんでいこうー日本列島北から南へ』(間瀬なおかた作・絵 ひさかたチャイルド 2016) ID12094

『せんせい! これなあに? 6生きものサイン』(藤丸篤夫写真 有沢重雄構成・文 偕成社 2016) ID12097

『よつごのこりす ふうちゃんのぼうけん』(西村豊著 アリス館 2016) ID12095

伊豆高原だより・外伝

「いぬいとみこ展」訪問記

うすゆきそう文庫 澤口志志

去る7月16日、練馬区石神井公園ふるさと文化村で開催中の「いぬいとみこ ながいながいおはなしをみんなに」へ行ってきました。伊豆高原での「海の日のおはなし会」に参加する前に途中下車したのでした。

いぬいとみこさんの「ムーシカ文庫」で子ども時代を過ごされ、現在「ロールパン文庫」を開いていらっしゃる、小松原宏子さんにご案内して頂きました。

時間に余裕のない私の為に、小松原さんは、もより駅まで車で送迎してくださったのです。

小松原さんとは昨年以來、お目にかかるのがたったの二度目というのに、長年の友人のように接して頂き、感謝でいっぱいです。

会場では学芸員の川崎奈子さんが丁寧に解説してくださいました。例えば、なぜ「北極のムーシカムーシカ」他のように、ふたごのお話が多いのか? いぬいとみこさんご自身が一人っ子で兄弟姉妹に憧れていたのでは・・・と、いうことでした。

おはなしの大好きな少女時代、宮沢賢治の世界に目覚めた女子大時代、保母、編集者、作家、そして「ムーシカ文庫」を二十三年開いた、いぬいとみこさんのお写真は、ふくよかな、温かい眼差しです。「ムーシカ文庫」の子どもたちは、この眼差しを一身に受け、楽しい時間を過ごしたのですね。

いぬいとみこさんが亡くなられた後、ムーシカ文庫で過ごした、元子どもたちの交流が自然に始まり、「ムーシカメイト」となり、未だに交流の輪が続いているそうです。

小松原宏子さんは、児童文学の作家、翻訳家ですのに、その肩書は「ムーシカ文庫卒業生」としているのは、なんとも素敵です。「○○文庫卒業生」いい響き! 使わせて頂きたいな!

展示を見終わって、児童書、絵本と作品の多さに驚きます。お馴染みの作品、知らなかった作品・・・大好きだった「山ほととぎす」を読み返したくなりましたし、いぬいとみこさんが影響を受けたという、コルネイ・チェコフスキーに興味を持ちました。

16年8月に入ったおとなの本

『コンピニ人間』(村田沙耶香著 文藝春秋 2016) ID16778※155 回芥川賞

『陸王』(池井戸潤著 集英社 2016) ID16779

※寄贈(中村さん)

『真價』(今野敏著 双葉社 2016) ID16780

『長流の畔一流転の海 第8部』(宮本輝著 新潮社 2016) ID16781

『落陽』(朝井まかて著 祥伝社 2016) ID16782

『荒仏師運慶』(梓澤要著 新潮社 2016) ID16783

『記憶の渚にて』(白石一文著 角川書店 2016) ID16784

『ジニのバズル』(崔実著 講談社 2016) ID16785

『求愛』(瀬戸内寂聴著 集英社 2016) ID16786※request

『楽しい夜一ヨーロッパ最古の昔話集』(ストラパローラ著 長野徹訳 平凡社 2016) ID16793

『イエスの幼子時代』(クツェー著 鴻巣友季子訳 早川書房 2016) ID16792

『楽しい夜』(岸本佐知子編訳 講談社 2016) ID16791※request

フィクション以外

『夏目漱石一文藝別冊 KAWADE 夢ムック』(奥泉光責任編集 河出書房新社 2016) ID16790

『寂しさが歌の源だから』(馬場あき子著 角川書店 2016) ID16789

『枕元の本棚』(津村記久子著 実業乃日本社 2016) ID16788

2016) ID16788

『江戸へおかえりなさいませ』(杉浦日向子著 河出書房新社 2016) ID16787

『女の甲冑、着たり脱いだり毎日が戦なり。』(ジェーン・スー著 文藝春秋 2016) ID16776

『属国民主主義論』(内田樹、白井聰著 東洋経済 2016) ID16766※request

『蔡英文ー新時代の台湾へ』(蔡英文著 白水社 2016) ID16767

『南米「棄民」政策の実像』(遠藤十亜希著 岩波現代全書 2016) ID16768

『テロルの伝説 桐山襲撃伝』(陣野俊史著 河出書房新社 2016) ID16769※request

『感情類語辞典』(アンジェロ・アッカーマン、ベッカ・バグリッジ著 2015) ID16775

新書

『言葉力を鍛える』(石黒圭著 光文社新書 2016) ID16770

文庫

『明治深刻悲慘小説集』(齊藤秀昭選 講談社文芸文庫 2016) ID16794

『ジャン・クリストフ(一〜四)』(ロマン・ローラン著 豊島与志雄訳 岩波文庫) ID16771〜4

※request

『エドウィン・マルハウス』(スティーヴン・ミルハウザー著 岸本佐知子訳 河出文庫 2016) ID16800※request

『緑衣の女』(アーナルデュル・インドリダソン著 創元推理文庫 2016) ID16803※request

『なんらかの事情』(岸本佐知子著 ちくま文庫 2016) ID16796

『千駄木の漱石』(森まゆみ著 ちくま文庫 2016) ID16797

『漱石追想』(十川信介編 岩波文庫 2016) ID16798

『怪談四代記一八雲のいたすら』(小泉凡著 講談社文庫 2016) ID16799※request

『おかしな男一渥美清』(小林信彦著 ちくま文庫 2016) ID16796

『千の顔をもつ英雄 上・下』(ジョーゼフ・キャンベル著 ハヤカワノンフィクション文庫 2016) ID16801~2

★10年誌文集を読んで★

おとなの本について:

文庫を開くとき、大人の本は文学のみ、それも小説とエッセイくらいを、と考えていました。

いつの間にか、リクエストや読まれる方々の傾向が少しわかり、様々なジャンルのものも入れるようになりましたが、今回の文集を読んでさらにあ

ーこんな本も読む方がいるのだと気づかされました。人となりが生きてきた証として読者に呼びかける本です。今回も少し入れてみました。

また、漱石100年でいろいろ漱石を語る本が出ていたので、それも。ところが、孫に言われて漱石自身の著作がないことに気づいたりして…

フィクションも、最新芥川賞、直木賞や話題になっているものも何冊か入れました。お楽しみください。

(さ・ら)